

# 高等学校における柔道の負傷事故に関する研究 - 中学校との比較から

## Injury Accidents in Judo at Japanese High School: Comparison with Japanese Junior High Schools

藤澤健幸<sup>1)</sup>，平野武士<sup>2)</sup>，金持拓身<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>Takayuki Fujisawa <sup>2)</sup>Takeshi Hirano <sup>3)</sup>Takumi Kanemochi

<sup>1)</sup>成蹊中学校

<sup>2)</sup>青山学院高等部

<sup>3)</sup>桐朋中学・高等学校

<sup>1)</sup>Seikei Junior High School

<sup>2)</sup>Aoyama Gakuin Senior High School

<sup>3)</sup>Toho Junior and Senior High School

キーワード: 高等学校，中学校，柔道，授業，部活動，負傷事故

Key words: high schools, junior high schools, judo, classes, club activities, injury accidents

### [抄録]

近年、藤澤は2009年度から2013年度までの中学校における柔道の「授業」及び「部活動」を対象として、安全対策の観点から柔道の負傷事故の現況について明らかにした。本研究では、研究対象を高等学校に移し、中学校同様に高等学校における柔道の「授業」及び「部活動」の負傷事故の現況を明らかにした。また、中学校の負傷事故の比較から、高等学校の負傷事故の傾向と特徴を明らかにし、その対策についてコーチ学的観点から検討することを目的とした。データを収集については、柔道の「授業」及び「部活動」の負傷事故に関する情報提供を独立行政法人日本スポーツ振興センターに依頼した。また、分析方法について、「授業」では、5年間の負傷事故発生件数の合計、平均値、標準偏差を整数値で算出した。さらに、分母に柔道の「授業」で発生した負傷事故件数の全体数をあて、分子に各調査項目をあてて、その割合を整数値、または整数値で示せないものは少数点第1位まで算出した。「部活動」は「授業」の負傷事故の分析方法に加え、公益財団法人全国高等学校体育連盟のホームページから、全国の柔道部の部員数を把握し、それをういて各調査項目の発生率を少数点第2位まで算出した。その結果、中学校との比較し、高等学校の負傷事故の傾向と特徴について明らかにし、それをもとに安全対策について検討をした。

まず、高等学校における柔道の「授業」及び「部活動」の負傷事故の発生状況、種類、部位について、主な結果を以下に示す。「授業」の負傷事故件数は13,884件であり、男女別の負傷事故件数は男子13,062件、女子822件であった。また、学年別の負傷事故件数は2年生6,510件、1年生5,972件、3年生1,402件の順で多かった。さらに、負傷事故の多かった上位3種類は骨折4,680件、挫傷・打撲4,325件、捻挫3,581件であった。負傷事故の多かった上位3部位は下肢部5,497件、体幹部3,626件、上肢部2,745件であり、それぞれの部位の中では足・足指部2,777件、肩部1,489件、手・手指部1,366件が最も多かった。また、「部活動」の負傷事故件数は22,810件であり、男女別の負傷事故件数は男子18,279件、女子4,531件であった。また、学年別の負傷事故件数は1年生9,891件、2年生9,174件、3年生3,745件の順で多かった。さらに、負傷事故の多かった上位3種類は捻挫6,605件、挫傷・打撲6,504件、骨折5,261件であった。負傷事故の多かった上位3部位は下肢部9,776件、体幹部5,762件、上肢部5,205件であり、それぞれの部位の中では膝部4,488件、肩部3,468件、肘部2,457件が最も多かった。

次に、中学校の負傷事故との比較考察の結果、以下のことが明らかにされた。高等学校における柔道の「授業」の負傷事故については、①高等学校の「授業」の負傷事故件数は中学校の約0.6倍であった。②負傷事故の上位3種類は中学校、高等学校ともに骨折、挫傷・打撲、捻挫の順であった。③負傷事故

の上位 3 部位は中学校,高等学校ともに下肢部,体幹部,上肢部の順で,それぞれの部位では,下肢部では足・足指部,体幹部では肩部,上肢部では手・手指部の負傷数が最も多かった。また,「部活動」の負傷事故については,①高等学校の「部活動」の負傷事故数は中学校の約 0.7 倍であった。②負傷事故の上位 3 種類は中学校では骨折,捻挫,挫傷・打撲の順で多かったが,高等学校では捻挫,挫傷・打撲,骨折の順であり異なっていた。③負傷事故の上位 3 部位は中学校では下肢部,上肢部,体幹部の順で多かったが,高等学校では下肢部,体幹部,上肢部の順であり,異なっていた。また,それぞれの部位の中では,中学校は下肢部では足・足指部,上肢部では手・手指部,体幹部では肩部,高等学校では膝部,肘部,肩部がそれぞれ最も多かった。

以上の結果をもとに,安全対策について検討し,以下の結論を得た。高等学校における柔道の「授業」では,高等学校教師の生徒への正しい足運びや体捌き,組み手の指導が大切であり,受の十分な練習による受け身の習得と,取の安定した体勢で引き手を最後まで引くなど相互の配慮の必要性があると考えられる。また,「部活動」では,指導者が日頃から競技者に対し,合理的かつ安全な技の掛け方を指導することが大切であり,投げられた際や関節技を施された時には勝負にこだわり過ぎずに潔く受け身をとることや「参った」を示すことなど,競技者への安全教育が重要であることを指摘した。

スポーツ科学研究, 13, 57-73, 2016年, 受付日:2016年6月17日, 受理日:2016年12月8日

連絡先: 藤澤健幸 〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-10-13

t-fujisawa@th.seikei.ac.jp